

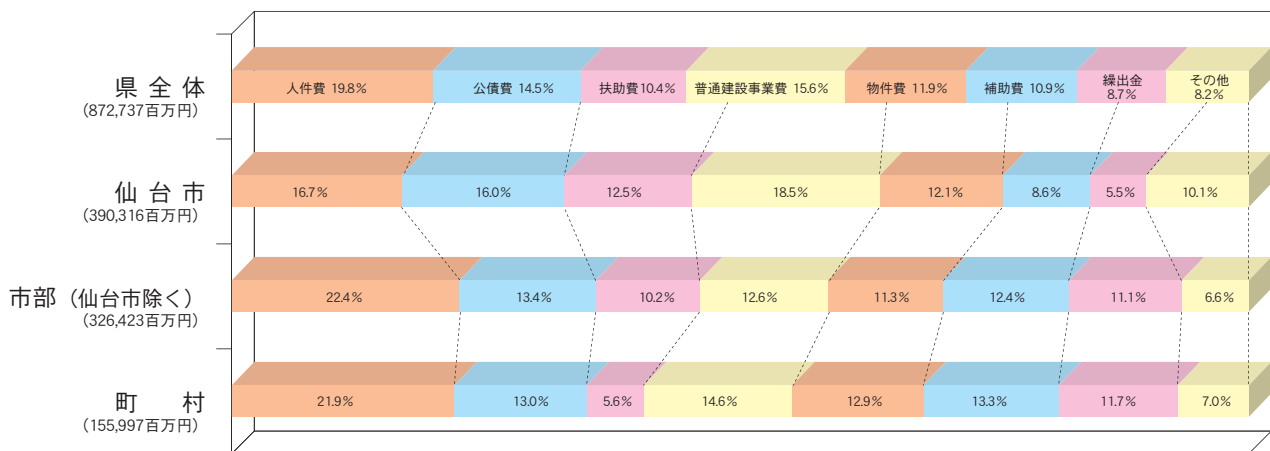
# 3、歳 出

## (1) 歳出構造

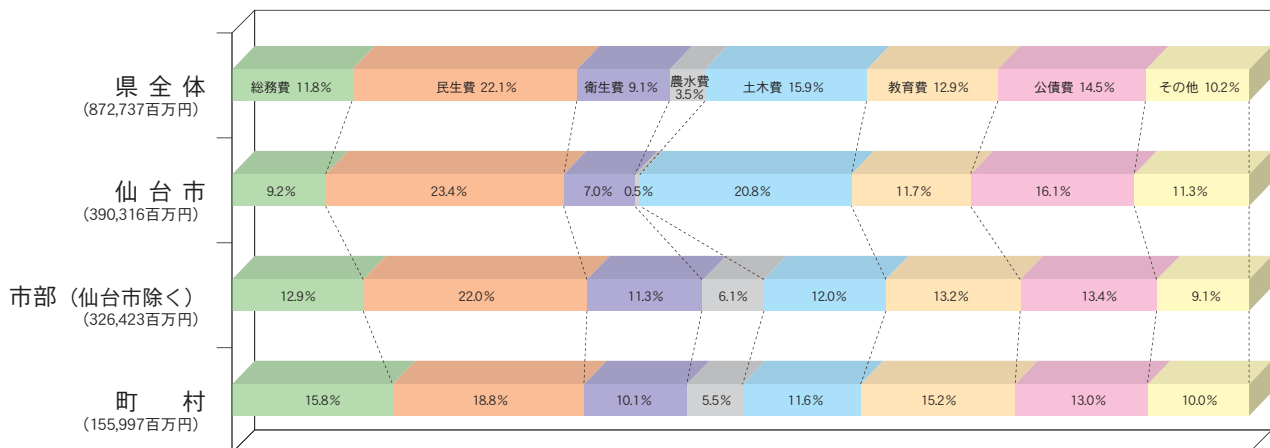
平成18年度の歳出は8,727.4億円で、前年度（8,931.3億円）と比較して203.9億円（2.3%）の減少となりました。

地方公共団体の歳出構造を分類する方法には、歳出を行政目的により分類した「目的別分類」と、歳出を経済的性質に分類した「性質別分類」がありますが、宮城県内の市町村についてはそれぞれ以下のグラフのとおりとなっています。

歳出決算の構造(平成18年度)  
(性質別)



(目的別)

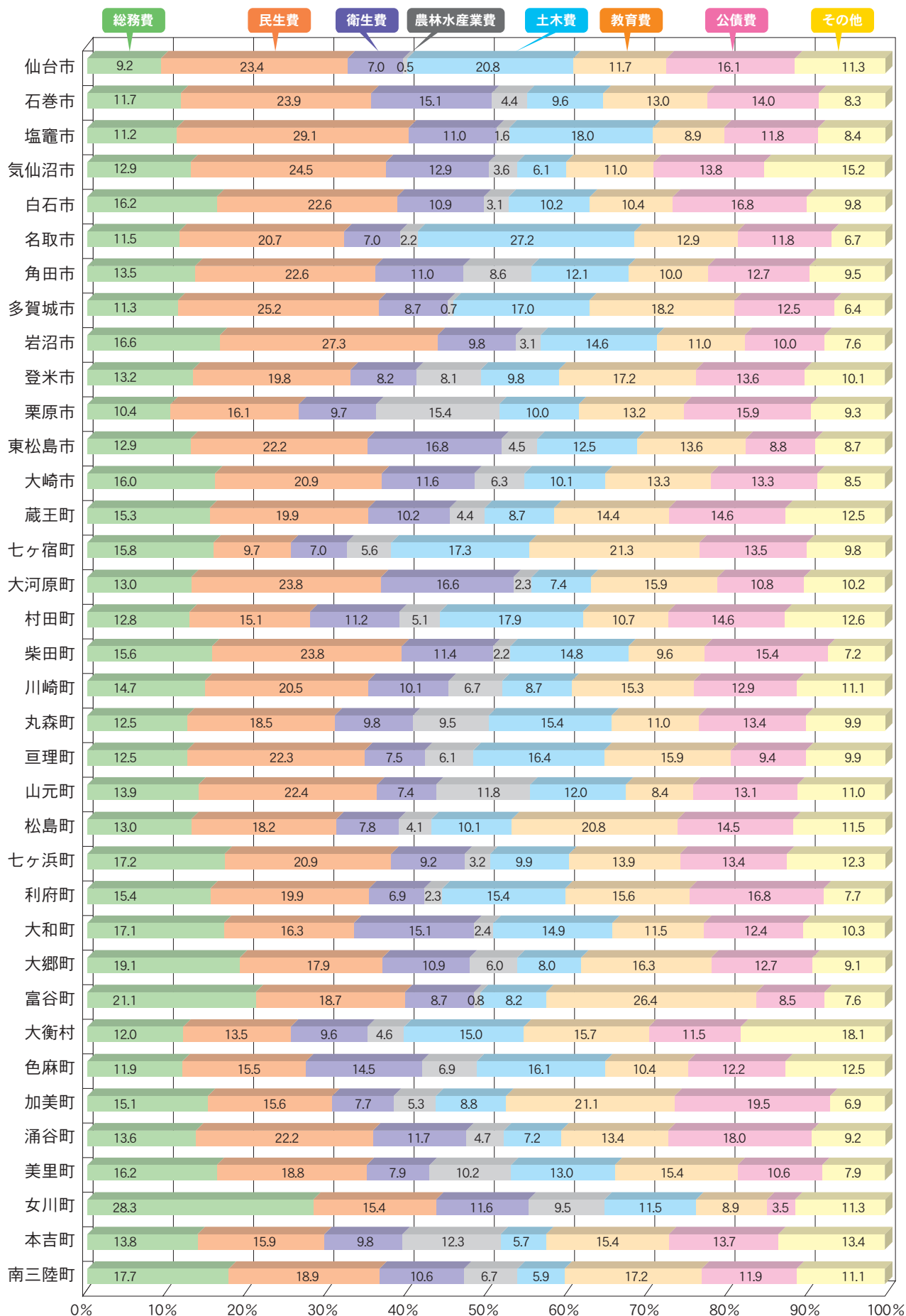


### 用語解説

**性質別分類** 歳出を経済的性質によって、人件費、物件費、維持補修費など、予算や決算の節という区分を基準として分類したものです。また、経費を「義務的経費」、「投資的経費」及び「その他の経費」に分類することによって、財政の健全性、弾力性を測定することができます。

**目的別分類** 歳出をその行政目的によって、議会費、総務費、民生費、衛生費など、予算や決算の款及び項という区分を基準として分類したものです。

## 市町村別目的別歳出構成比(平成18年度)

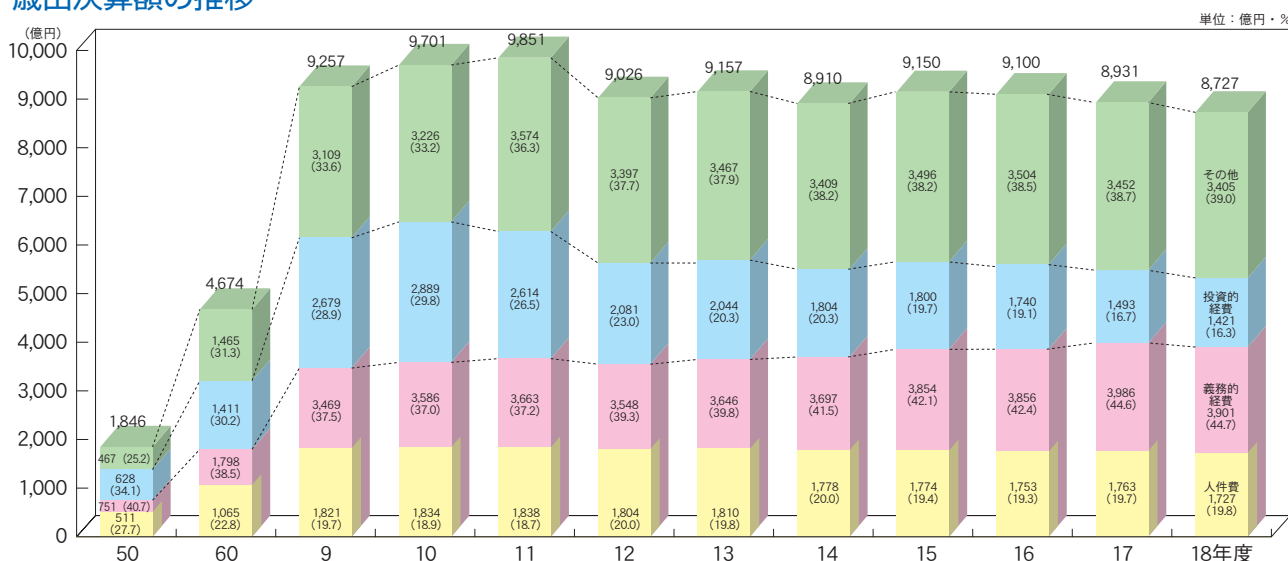


## (2) 経費別決算額の推移

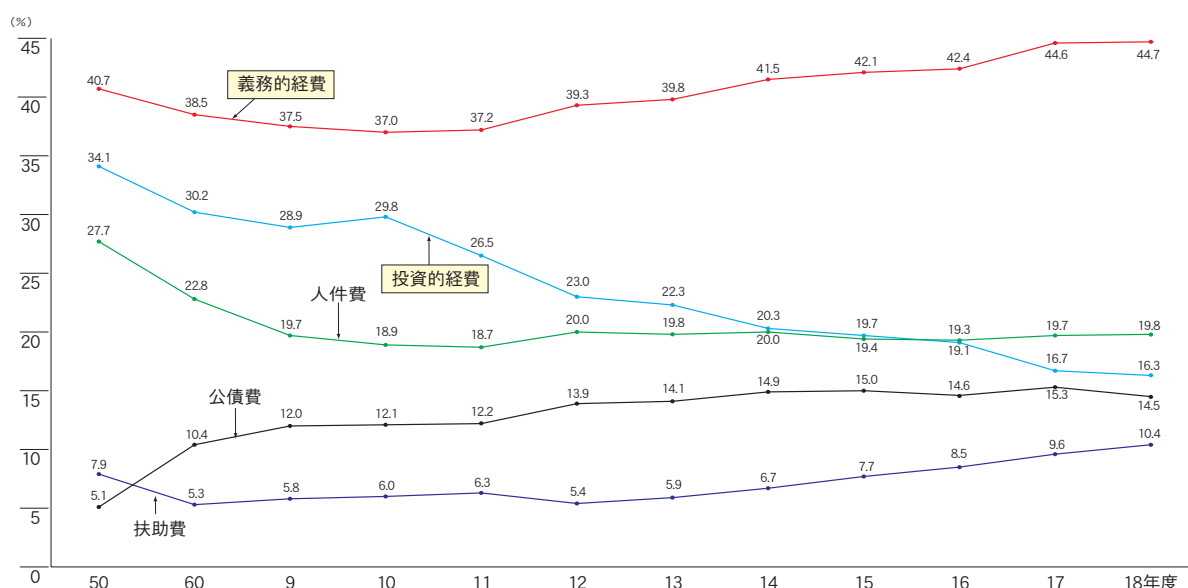
義務的経費は、前年度(3,986.4億円)と比較して2.2%減の3,900.7億円で、歳出総額に占める割合は44.7%となりました。内訳としては、人件費が集中改革プランに基づく退職者不補充などの職員数削減により、前年度と比較して2.1%の減、扶助費が生活保護や児童手当等の支給額が増加したことにより、前年度と比較して6.0%の増、公債費が、前年度と比較して7.4%の減となりました。

投資的経費は、前年度(1,493.2億円)と比較して4.8%減の1,421.3億円と8年連続で減少し、歳出総額に占める割合は16.3%となりました。内訳としては、普通建設事業費が単独事業を中心に減少したことにより、前年度と比較して7.8%の減、災害復旧事業費が平成18年冬の凍上災害等の影響により、前年度と比較して229.8%の増となりました。

### 歳出決算額の推移



### 義務的経費・投資的経費の割合の推移



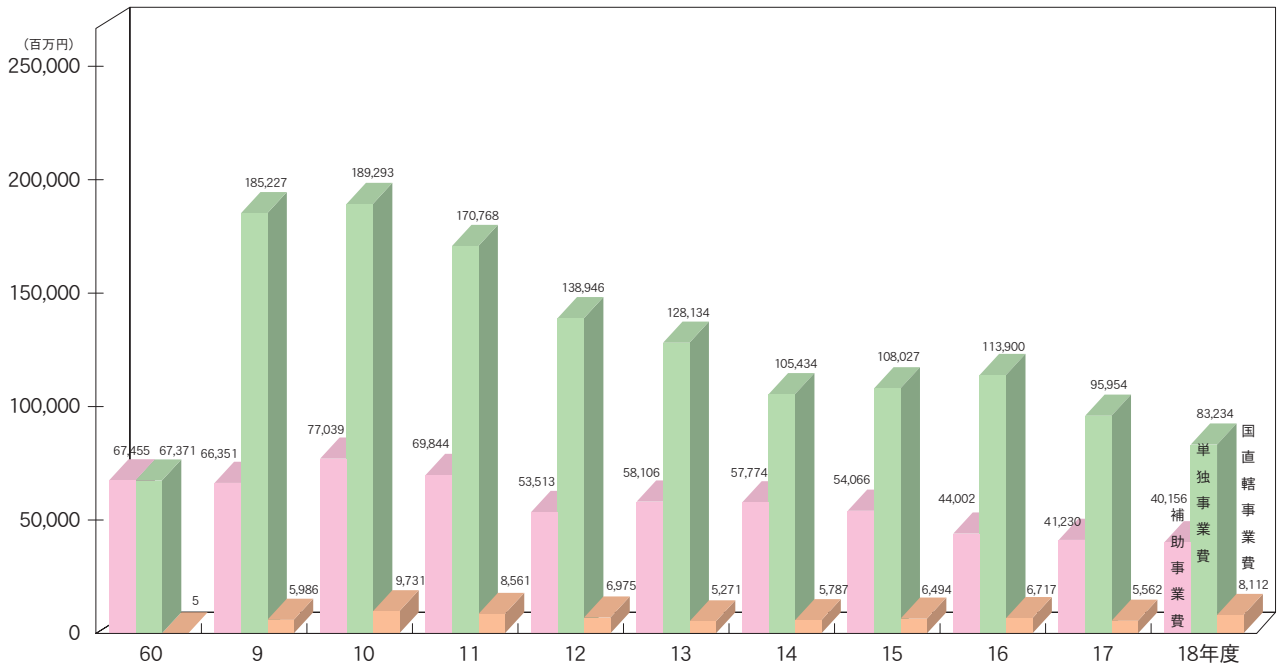
### 用語解説

**義務的経費** 人件費、扶助費、公債費が該当します。支出が義務づけられているため、任意に節減できない極めて硬直性の高い経費です。

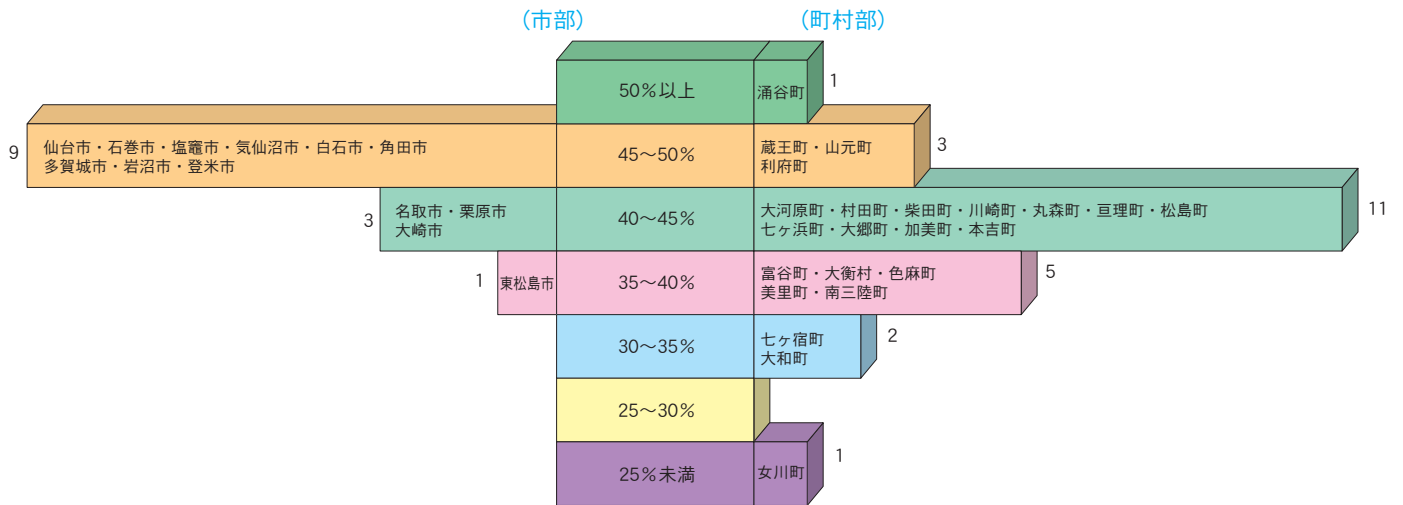
**投資的経費** 普通建設事業費、災害復旧事業費等、その支出の効果が資本形成に向けられる経費です。義務的経費に対して、この経費の割合が高いほど、財政構造は弾力性が高いと言えます。

**普通建設事業費** 道路、橋りょう、学校、庁舎等公共用又は公用施設の新増設等に要する投資的経費のことです。

## 普通建設事業費の内訳の推移



## 義務的経費の割合別団体数(平成18年度)



## 投資的経費の割合別団体数(平成18年度)

